

## 2020 年度

## 授業概要

科目名	発達障害治療学			授業の種類	講義	講師名		
授業回数	15 回	時間数	30 時間	1 単位	必修・選択	必修	配当学年 時期	2年 前期
【授業の目的・ねらい】 発達障害分野の作業療法評価と治療について学ぶ。 人間発達学や小児科学で学んだ事をベースに観察評価を行い発達障害について考える。								
【実務者経験】 兵庫県立のじぎく療育センターにて作業療法士として勤務後、地域に密着した公民館などの場所で発達相談を行う。								
【授業全体の内容の概要】 運動障害から行動障害・社会性障害を含む疾患への作業療法としての対応を学ぶ。								
【授業終了時の達成課題（到達目標）】 発達障害領域の疾患を理解し、それらをどのようにして作業療法として展開していくのか説明することができる。								
回数	講義内容							準備物(教材)
1	Introduction							
2	Introduction							
3	1章 子供の発達と作業療法							
4	1章 子供の発達と作業療法							
5	2章 評価							
6	2章 評価							
7	3章 治療的アプローチ：発達の各領域に対するアプローチ 5 各種対象疾患に対する作業療法アプローチ：デュシェンヌ型筋ジストロフィー							
8	3章 6 各種対象疾患に対する作業療法アプローチ：二分脊椎 7 各種対象疾患に対する作業療法アプローチ：分娩麻痺							
9	3章 1. 感覚統合機能に対するアプローチ							
10	3章 3 知的障害に対するアプローチ							
11	3章 4 摂食嚥下障害に対する作業療法							
12	4章 対人援助職としての作業療法士に求められるもの 1 養育者の育児を支援する視点							
13	4章 2 弱者の支援者としての作業療法士：被虐待児への作業療法 3 弱者の支援者としての作業療法士：保護者への対応							
14	多職種との連携 スヌーズレン 園芸療法							
15	1から14のまとめ							
定期筆記試験								
【使用教科書・教材・参考書】 ゴールドマスター発達障害治療学								
【準備学習・時間外学習】 小児科学の講義を振り返る。また、疾患と作業療法の結びつきをしっかりと理解するよう復習しておく。								
【単位認定の方法及び基準（試験やレポート評価基準など）】 試験の結果を100点満点として成績を評価する。 試験は定期筆記試験を100点とする。 60点以上の場合に科目を認定する。								